(四日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭 第一 第三日曜
定價 壹部二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢(指定廿錢増)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町研町拾六 磐城新聞社

映畫 メトロポリスを見て(上)

在小名濱 水野忠護

私は深い冥想にふけりながら夜の池の端通りを逍遙つた、實際私はまだ今見た映畫メトロポリスから受けた輕い興奮からさめてゐなかつた。

初夏の夜の微風はそつと私のほてつた頬をひやす様になでゝ行つた。空には悲の様ににぶい光をなげて星が三つ四つ五つ。近くを走る電車の騒音が……

映畫メトロポリス。——機械文明の限りなき進歩、人智の測り知れない神秘、萬物の靈長たる我々の繁榮振りを前景にしてその蔭に古代ローマ末期のそれよりも(哀れみにくゝもあさましき野獸的な本能から遂に吾人々類は脱し得ざるべきや?と科學的智識はギリシャ以來三千年さながら大湖の水の堤を切つて奔り流るゝ様に一瞬の休みなく何等のちゆう躇もなしに發達進歩を爲しつゝあるにも係らず我々に取つて、地球の覇者たる我々に取つてそしてその位地を確保せねばならぬ我々に取つて、最も尊く、しかも必須であるべき精神文明は如何に?と説いた名篇。それを私は今見てきた。

今靜かに過古の人類史を繙どく時、吾々人類はプラトー以來、ソクラテス以來果して彼等に優る哲人を生んだかクリストに、釋迦に孔子様に。あゝ人類はかくて機械と魂とのアンスタビリテイーの不均等の生活を永久に持續しようとしてゐるのかしら、それよりも持續し得るだらうか。見よ、十四、五世紀の欧羅巴の暗黒時代を、近くはウヲータールーの決戰を世界大戰の原因を。これ皆、畏るべきこの不平均、不均等な人類社會生活の小さな綻びでわないか。

名畫メトロポリスは吾人に何を暗示してゐる?何を暗示してゐるか。それがまだ小さな綻びである間はいゝ。何故つて繕ひが出來るぢあないか。然しながらその綻びが繕ひきれなくなつて、それはあだかもあのアラビヤ夜噺の森の皇子の寶袋の様にとんでもない時に破裂してしまつたらどうするか。たゞその時こそは畏るべし吾人々類破滅の時なんだ。上帝より最後の審判を下される時なんだ。世界大戰爭はあの洶瀾莊嚴なりし歐洲の大文明を灰にした。然しその時代は未だ物質文明と精神文明との不均衡の調和が現今と較べて格段の相違があつた。しかるに我れ以後僅か十年恐るべき我々人類はその精緻なる智能もて機械文明の幾何級數的な發展を爲しとげた。

一九一五年時代の地球の直徑千尺とすれば現今のは明らかに五尺に短縮されて了つた。見よ、最近の新聞紙は大戰當時は夢想だもせなかつたツエッペリン伯號大飛行船の世界無着陸飛行を報じてゐるではないか。米國陸軍飛行機?號の驚異的長經續飛行の成功を報じてゐるではないか。

我等の地球の直徑はその勃初當時に於ては實に千尺、否一萬尺でもあつた。それがギリシャ人の出現により五百尺となり、コロンブスの新大陸發見の結果、百尺となり、更にスチブンスン、ワット、ワシントン、プライト、コペルニクス、エヂソン……の出現によつて五十尺となり四十尺なり三十尺となり遂に十尺、五尺となつて了つたではないか。さらば百年後の四尺を二百年後の三尺を千年後の一寸を……

かくて二千年三千年後における魂と機械との平衡の失われる所、戰慄すべき爾者の大衝突を、一大爆破を(それはフランス革命、ロシヤ革命、支那革命、比……ない事は論を待たない)即ち悲しむべき人類の自滅を誰が無いと斷言し得るか。

俳句

小川郷 吉岡獨歩

平町議戰後記

吁五月三十日
競べ馬堅唾を呑んで眺めけり

盲人の點字投票
交じり咲きて放つ異彩や黒牡丹

、高齢の選擧人
八十の翁も出たり早苗取

其夜の選擧會
今し聞く勝敗の鍵や杜宇

午後十時頃
短か夜や悲喜交々の宵の口

午前零時前後
夜をこめて守る陣屋や明易き

果然高橋龜松氏高點
牡丹や神の試煉の一人者

新平町會の政黨分野
時鳥大勢已に決しけり

政友會の猛者十四名
薫風や塵列べし十四將

同情すべき次點者
印地打刀折れ箭盡きて殪れけり

明日の暦　舊暦四月二十八日　新暦六月五日

▲一白 巡り來れる幸運逸せざる様に努力あるべし▲二黑 蹉跌を生じ易き日故成るべく内を守るべし▲三碧 迷雲眼前に横はりて行く手の定まざる日▲四綠 氣心に落付きを生じ來る日急がば廻るべし▲五黄 行違ひの生じ易き日何事も手控するが安全▲六白 その位置に安んじ日課を怠らぬ様にすべし▲七赤 小を得て大を失ひ易し進むより守るが無事▲八白 知つた振より不慣れの事を持込まれ難儀する日▲九紫 弱合ひよく事業の進み行く日但し飲食注意

滋養劑の覇王
マルケイ ヴイタミンに限る
平五 山野邊藥局

小説 死を超ゆる者 (2)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

小公園の逢曳(二)

しかし(昔の樂み)つて言ふから、君の(心配事)の方からはじめ給へ」と青年は相變らず若々しい快活な聲で言つた。

「ねえ、どんな事なの?」

とき子は相變らず首を垂れたまゝで吐息をした。そしてその次の瞬間には膝に垂れた肩掛のはしで慌しく眼を抑へた。

「どうしたの?君。哭いてゐるんだね?」

これまでいづれ左迄重大な事ではあるまい、青年にしい樂觀に傾いてゐた彼れは相手の涙を見て俄に彼女の惱みの程度を感得したやうに叫んだ。しかしとき子は答へなかつた答へのかはりに咽びなきが彼女の唇を洩れた。

「哭いてゐてはわからない そんなに悲しいことならなほのことはやく話してくれなきや……」

とき子は男の手が肩にかゝつた時はじめてせぐり上げながら言つた

「若様……私はもう駄目で、すわ……お別れしなければ」

「別れなければだつて?別れなければ!何を云ふんだね?ときさんは——」

と青年は肩にかけた手に力を入れて言つた

「どうしてだしぬけにそんな事を言ふんだね——それ?」には何か譯が……さあ、た言ひ」

「でも、父がさう申すんですもの……もう何れかもなくなつてしまつて、た前だけが寶だつて……それで今渡こそ、その寶をどうにかしなければしかたがない破目になつたつて……」

青年はハッとしたやうに女の肩から手を離した

僕には解らない……詳しく話してくれ給へ」

「父はあれからまた誰にも内所で相場へ手を出してゐたのです」

娘はもう哭かなかつた はかなげな眼付で崖下の黒い水を無意味にか下しながら話し出した

「そしてその方をやりそくなつたのはまだいゝ人ですけど、會社の方のお金を隨分な額を使ひ込んでしまつてゐたんですもの。

それが年末の決算であらはれたものですから……今度は會社の方でもう大目に見て置くことは出來ないと言つてこの頃毎日のやうに入か來て……中には大變父に同情してゐてくださる方もあるんですけれど社長がひどく憤りなつてゐてどうやら法律上の罪人にもしかねない有樣になつてゐますのよ」

「ふん、たつた十日ばかり逢はないうちに君の家へそんな事件が出來てゐたんだね」と大學生も暗い水を眺め乍ら言つた

「それで、その額はどの位」

「六千圓ですつて……」

青年は默り込んだ

「その六千圓が今の父の手ではとても搦まる筈はないものですから……六千圓ところか千圓だつて搦まる筈はないものですから、どうにも妥協の道が盡きてしまつて……」と娘は聲を飲んで「一時は自殺でもするかと心配しましたわところが」

娘がちよいと默つてゐたので、大學生は沈思から醒めたやうに相手の横顔を眺めた

「ところが?」

「ところが昨日の朝、會社の方からでなく社長の邸の執事が來てこんなことを申すんです、若しあなたの方で私の主人と親類になつて下されば僅かなお金の問題だからた話しをどうともつけることが出來ないでもありません……」

「親類になるつて言ふと?」

青年は激しい目付でまたとき子を眺めた

外科 婦人科 內科 X光線科
外科一般 耳鼻科 花柳科 產科 婦人外科
赤心堂病院 平町田町(電四七五)

御見舞御禮
本日近火の際は早速御馳付け消火に御盡力下され候爲め幸ひ類燒を免れ候段誠に有難く混雜中欠禮乍ら紙上を以て御厚禮申上候
平町才搥小路 ライト寫眞館

近火御見舞御禮
平町才搥小路 松本源吾 清光堂分店 大須賀元助 綠川喜三郎 大里木炭店
平町田町 明治堂 魁文堂

類燒御見舞御禮
本日類燒の際は早速御馳つけ被下御見舞を賜り誠に有難く奉存候、御蔭様を以て家一同無事避難致し候間御安心下され度く混雜中畧儀紙上を以て御厚禮申上候
平町才搔小路 福島新聞平支局 森田忠政

初夏 本年流行
◆婦人洋傘 ◆ワイシャツ ◆ネクタイ 各種
にツルヤ 平町四丁目 電一四〇

新レコード着荷 コロンビア邦樂レコード
現代劇 受難華 二枚 水谷八重子 花柳章太郎 柳永二郎
映畫小唄 沓掛小唄 一枚 大河內傳次郎 其他
映畫小映 燃へるの唄 一枚 川崎豐 島田晴譽氏指揮 松竹管絃樂團伴奏
追々夏らしい氣分になつて參りまして愈々蓄音器のシーズンが近付きました。此の機會に於きまして弊店では右の如き特別發賣を致す事に致しました。何卒御用命下さる様
特に蓄音機の修繕は安く良く早く
平三 大谷時計病院 電話一一九番

改正 片濱乘合自動車時間表
平發 五時三十分 六時三十分 八時 九時 十時 十一時 十二時三十分 一時五十分 三時 四時 五時二十分 六時三十分
江名發 五時三十分 七時 七時五十分 九時二十分 十時三十分 十一時五十分 一時 二時 三時四十分 四時四十分 五時四十分 六時四十分
平のりば 四丁目和泉屋前 新川町車庫
江名のりば 沖見屋 松屋 電話十四番
鈴木片濱自動車部 電話二一七 車庫呼出電話一四二

高久病院 平町田町 電話五〜三番
內科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄

內科、小兒科 (院長每日診療)
院長 醫學博士 難波睦
副院長 醫學士 五十嵐雄次
內科部長 醫學士 中西林藏
外科一般
外科部長 醫學士 氏家憲介
每日曜手術 醫學博士 桂重次
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長 醫學士 五十嵐雄二
顧問 醫學博士 川添正道
×光線科
主任 醫學博士 難波睦
本院醫事法制囑託 法學士 岡蕃
本院主事 賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一、衞生試驗所(共濟病院內)
一、病氣相談所(共濟病院內)
一、救療所(共濟病院內)
磐城 共濟病院
◎看護婦見習募集 平町電話六四一番

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院 平町紺屋町 電話平五〇七番

ヒゲタ醤油 宮內省御用達
銚子醤油株式會社
特約店 平町田町 廣瀨支店 電話五四番

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り 安齋外科醫院 電話四三六番

平町紺屋町 吉田眼科醫院

六戸十棟を焼いた平町の晝火事
製板工場附近から發火し原因損害取調中

平町才槌小路色川材木店裏の物置附近より四日午前十時五分頃突然發火折柄の風にたちまち附近住家に燃え移り荒木喜太郎、江口新太郎、森田忠政、志賀子之松、色川勝三郎外空屋一棟全燒六戸を出し半燒は山野邊義政、高崎勝吉、江口忠一の三戸と色川倉庫二棟を全燒し約一時間に亘り延燒し平消防を初め附近消防組出動極力消火に努めた結果十一時十分鎭火した平署では全署員出動し非常線をはつて警戒したが一時は非常の混雜を呈した原因損害は目下平署で取調中である

山野邊義政氏　足部に負傷す

辯護士山野邊義政氏は自宅が危險と見るや最後まで二階に踏み止まり家財の搬出に從事した爲め逃げ場を失ひ二階より飛び降りて足部に負傷した

火因容易に判らぬ　損害は五萬圓

原因については色川材木店裏物置より發火したとも稱されて或は汽車の飛火からとも言はれ未だ確定に至らないがスワ火事だと騷ぎ出した頃には邊り一面は全く火に包まれ一面に燃え擴がつた爲め火元が容易に判然せぬらしく損害約五萬圓を下らぬ模樣である

元の平局舍を公會堂　平町有志の計劃

平郵便局は愈々平町四丁目に新築する事となり一日地鎭祭を執行、工事に着手したが新廳舍に移轉する事になるべくそれと同時に現廳舍跡の處分について地主である三丁目有志間に種々計劃されてゐるが開くところに依ると現廳舍の土地は二百坪あり之を他に賣却するよりも町の繁榮をはかる爲めに二階建の公會堂の樣な建物を新設し階下を公會堂或は紳士階級の娯樂場として使用する事とし階上は簡易食堂並に無料宿泊所の樣なものとする案だそうで此の計劃は各方面から可成注目されてゐる

貨物自動車　田甫に顚落　負傷者を出す

石城郡江名町字仲の作瀧口平治所有福第一三一號自動車運轉手宮城縣伊具郡生れ折笠明(二三)は二日午前七時頃トラックに鰯を滿載し商人十名を同乘させて同郡飯野村字占土地内街道の急坂を疾走中カーブに差懸つた際運轉を誤り田圃に墜落同乘者は全部泥田にはね飛ばされ江名町居住行商人鈴木いそ(五四)同鈴木きくの兩名は頭部足部に全治二週間の打撲傷を負ひ大騷ぎを演じた運轉手折笠は平署に召喚取調を受けた

許可せないなら勝手に投網
しびれを切らした漁民　小濱大謀網運動

石城郡植田町小濱漁業組合に於ては去る三十日臨時總會を開いて大敷網許可促進陳情方につき協議の結果組合員抽籤にて二十名の陳情委員を擧げ豊田組合長、濱遊幹事及び町當局、町會議員代表古川鶯、兩縣議と共に近く出漁し速かに許可される樣陳情する事になつたしかして同組合に於ては何等の支障なく大敷網は許可されるものと豫想し既に諸準備を整へ出漁し得るばかりになつて居り組合員の大部分は田畑を賣り或は他に貸つけて農事と手を斷ちて舟乘り込の用意をなしたる事とて此漁期に際し大敷網の許可遲れるか或は不許可にでもなれば直に生活上の一大脅威を受ける事となるので今や組合員死活の岐路に立ち必死の運動を起こす事となつたが若し徒らに許可の遲延を見るが如き場合は背に腹はかへられず禁を破つても大網を入れん形勢を示してゐる

教育は健康から
平第二校　金澤學堂

教育は先づ健康から

何が大切だと云つても体程大切なものはありますまい、健康程難有いものは又とありませうか、是は唯病氣などになつた時ばかり思ふことでもありますまい、人生の幸福は健康な身体の持主でなければ味ふことの出來ないことは敢て喋々を要せぬことと思はれます。

何程財力が有つても何程教育があつて才藝に長じてゐても体そのものが健康でなかつたならどれ程不幸か知れますまい、何と云つても人生第一要件は健康です教育の第一要件は健康です是を自覺してゐて是に留意せぬた方がありましたら煩惱現世をいやが上にのろつて暮さなければならぬ樣になりませう。大切なお子樣發育に當て一番留意すべきは何をおいても毎日の健康狀態です。毎日お子樣の睡眠、食慾、氣分、便通、動作等其の他異狀に留意なさることが大切です、異狀を認めましたら必ずその原因に御注意下さい。

体温、呼吸、脈柏、顏色、便通動作其の他異狀に留意なさることが大切です異狀を認めましたら必ずその原因に御注意下さい体温呼吸脈柏顏色便通等其の他極部的異狀等の工合で大体其の病勢を察知することができますから、是に對し相當な處置をなし無理をさせぬ樣にすることが大切です。又異狀ある場合登校さすなどきは必ず受持訓導に御通知なさることが必要です。

無欠席精勤と云ふ事は望ましいことですけれ共体の異狀もかへりみづ登校さすることは注意いたしたいものです。學校でもそれに氣付かず無理な仕事までさせる樣な場合がないとも限りませぬ

去年受持の兒童でしたが顏色が常と變つて元氣がなくて登校してゐましたから色々其の兒童 体の工合などきいて見ましたが別してのこともないのでそのまゝ二日程すぎて元氣が益々ないので總て調べてみますと幾分顏色などはれてゐる樣ですから脈柏や呼吸をみましたら常と異ふし小便などの工合をたづねてみましたら常の樣でなくたいへん色が赤いといつてゐました。私もおどろきまして直に手紙をもたして歸宅させ直ちに醫師の診斷を受ける樣に云つてやりました。腎臟炎と餘程進んでゐるとの事でした。十日程の加察で治癒いたしましたがこれなど兒童が床につくまで知らずにゐたらどうなつたことかと思はれ考へるだけでひや〳〵いたします。子供は病氣に對し比較的苦痛を感じない樣です、だから氣つかぬ先に重患におちいつてゐる樣なことがまゝありますから餘程注意いたさなければなりませぬ、私共は大切なお子供をおあづかりいたしかうしたことが一番心配でたまりませぬ私共は每日朝の第一時の始めに全兒童の顏色動作等に注意することを忘れません、お家でも登校前このことに御留意ねがひたう御座います。

積極的な体育や意志の訓練といふことは完全な身体狀態時に於てはよいことにちがひありませんが身心に異狀ある場合には餘程注意いたさなければなりませぬどうか登校前必ず御子樣の健康異狀に御注意をねがひます、兒童が自分から工合が惡いことを訴へるときは餘程いけないと思ふ位にしていたゞきたいものです。異狀に氣付かずにゐてとり返へしのつかぬ事がないとも限りませぬ無理をしたために病勢を强めることはめづらしい事ではありません

ムシ齒

近頃の子供は非常に齒がわるい樣です。殊に都會の兒童ほどムシ齒が多いのです私の受持つてゐる兒童數は五十四人ですがムシ齒をもたぬ完全なものが二人しかありません。或る醫學者の發表によりますと是は甘いものを多くとるために糖分はカルシウム分などをつまりとかすわけになるのだそうです、だから單に齒がわるくなるばかりでなく骨も從つて齒と同じく發育が害されるといふことです。

是れから考へて見るとたくさんの糖分を與へることは餘程注意いたさねばならぬことと考へられます。

つまり糖分を多くふくんでゐるものを過量に與へることは胃腸をそこなひ身体を薄弱にすることになるわけですから大に注意をせねばなりません、ムシ齒を蝕されたら一日も早くなほすことに努むること、ねる前に齒の掃除をする習慣をつくること等は大切なことです、ムシ齒の多い兒童はたいてい身体が薄弱な樣に見うけられます。

今月中に目鼻の付く鮫川疏水の復活
會社現在の狀態では十萬圓が問題

石城郡鮫川江筋復活問題は既報の如く組合側から十萬圓を會社側に要求し委員を擧げて交渉中であるが會社の財政狀態から十萬圓の支出は非常に困難なため會社側では組合側に對し未だに確答を與へないため交渉が更に進捗せず

五年度工事として豫定されて居るが會社からの確答がない中は工事豫算を編成することが出來ず若し明年度豫算編成を始むる來る七月末までに決定しなければ五年度に於ても結局工事を開始することが出來ず

從つて江筋沿岸にある水田もこれがため非常な損失を來すことになるので組合側では今月中には遲二無二解決せしめ以て豫定通り五年度に於て工事を完成せしめんとして居るが果して今月中に解決を見るか否かは頗る疑問とされて居るなほ今月末頃までに組合議員總會を開く由であつてこの總會は頗る注目されるものがある

四倉繭市場開設　來る十三日から

石城郡四倉繭市場は先高を豫想され早くも長野、群馬縣方面の各製糸會社から取引の申込みあり、これがため同市場は近來稀なる前景氣を呼んでゐるが三眠前後天候不順で氣溫が低かつたので從つて上蔟期が二、三日遲れたため出廻りもそれだけ遲れる事になつたので同市場は來る十三日開場の豫定となつてゐたが前記の事情と小川、赤井、渡邊方面の便宜をはかり來る十三日から開場することに決定しその旨各町村に通知を發した尚最近の天候恢復からいづれも上蔟期を控て好成績を示して居るから春繭出廻りさへなれば農村の景氣は相當持ち直すものと見られてゐる

平にチフス
町民ビク〳〵もの

平町腸チフスも昨今全く終熄の域に入つたので一般に安堵してゐたが何せ入梅期に近接しつゝあるので再び懸念狀態となした折柄三日朝新川町鈴木レン(三六)鈴木クマ(六四)の兩人が同時に發病したので當局は非常に狼狽し附近の大消毒を施し警戒豫防に努めてゐるが昨年の如く一時に七十餘名の患者を生じ四十名以上も隔離する結果になるではないからうかと町民はまた〳〵不安にかられてゐる

牝馬健康診斷
產馬畜產組合で

石城產馬畜產組合では馬匹の蕃殖を計るため次の各村に於て牝馬健康診斷をなす

△十日午前十時山田村△十一日午前八時田人村、上下黑田、旅人村△十二日午前九時南大平、午後一時入旅人△十三日午前九時荷路夫午後二時貝泊村△十四日午前八時石住村、貝泊村、厥平△十五日午前八時入遠野村△十六日午前九時上根村△十七日午前八時大平

回復の望み無き石城の小炭礦
免れぬ勞働者の處分　注目は此の一點

石城郡赤井村の川瀨炭礦を筆頭に常磐各小炭礦は設備不完全の結果過般石城地方を襲つた洪水の爲めに坑内に出水し川瀨炭礦は其の復活が危まれてゐる、復活が疑問視されて居るのは獨り川瀨炭礦のみでなく内郷村白水方部にある

各群小炭礦中水害を被つたところでは排水作業を續けてゐるが復舊費の調達が現在の如き經濟界が不振の際では融通がつかず、結局事業縮小するか休山するか二途より外に道がなく某炭礦では近く經營中の大半を解雇して事業を縮少する計劃を進めてゐるとの事である、炭礦地方はこれからは需要期でないので當然事業は緊縮の方針で進められるので、此の際水害の爲めに職を失つた從業員は直ちに適當な働き口を見い出す事は極めて困難であつて水害を受けて各小炭礦の對策は

可成重大視されてゐるが數百名の炭礦勞働者が一朝の水害の結果失業者の群と化す事になり炭礦經營者は復舊を急いでゐるが多少の失業者を出す事は最早免れ難い狀態にあると

中堅農民講習、石城

郡農會主催の第二次中堅農民講習會では來る十三日午前七時から四倉驛前の大浦村農業倉庫に於て現地講習をなす

赤井の梨果
共同で發展計劃

石城梨の本場として知られてゐる赤井村では同村產の梨果が近年東都市場は勿論遠く關西方面にまで聲價を上げてゐるので今後ます〳〵梨樹、果の研究に努めし此の石城梨の聲價維持に資すると共に將來同村全部を梨園化せんとする頗る遠大な計劃を樹てた

平五日會例會

平町五日會例會は五日午後七時より舊中商業學校に於て催すと

かみくづ

◇一時は一流の姐さん株で通した久本の「ひさご」も先月限りに藝者を廢業した。アノ藝と座持ちで心懸けさへ能かつたら、大勢の若い妓だちから慕はれ永く花柳界の立者になつて居られたらうにと思へばナンダカ惜しいような氣もする◇料理屋に毎日のカラ玉をつけて見得を張つた負けず嫌ひも押し寄する世間の荒浪に逆らひ得なかつたのは女は遂に弱き者か、身から出たサビとはいへ氣の毒なものだ◇强いヴアニテーからの浮草生活、エゴイズムからの異性征服、その華やかな誇りの間に、自分の墓穴を掘りつゝあつたのか。社會の下す最後の判決は公平なものである古い事だがきん花一朝の榮!ア、。

火災保險　二萬五千圓　損害は五萬圓

別項平町の火事につき平署の損害調査に依れば家屋損害七千九百四十五圓動產三萬七千六百圓合計四萬五千五百四十五圓で災害者色川勝三郎氏の保險契約高は一萬五千圓、江口忠一氏一萬圓その他であるが發火原因調査中

紅燈街

新田町品深からこの度御披露目した「みやこ」はみめよく藝も素敵に達者な妓ですどうぞよろしく

内郷村議選擧に社民大衆極度の反目
先づ告訴騷ぎを持ち出し　立候補三十三名

石城郡内郷村議改選はいよ〳〵來る八日執行されるで運動は頗る猛烈をきはめて居るが去る三日までに立候補屆けをしたものは磐炭から十一名、社民黨三名、大衆黨一名その他一般から十八名合計三十三名に達してゐるが無產黨から立候補したといふので從來の選擧にくらべて緊張味を見せて居るが無產黨としては尤も大切な選擧なので社民大衆共に物凄い運動をつゞけてゐる、ところがこの程大衆黨から立候補した加藤木織一氏が社民黨の小玉慶次郎氏に對し金錢問題で惡宣傳をなし同人妻けさのに對しても名譽を傷つけたといふので小玉は加藤木を相手取り三日平署に選擧妨害の告訴を提起したが同人妻からも同樣名譽毀損として告訴した

類燒御見舞御禮

本日類燒の際は逸疾く御駈付け下され特別なる御援助と御見舞を戴き候段有難く奉存候混雜中欠禮乍ら紙上を以て不取敢御禮申述べ候

六月四日

堀江工業株式會社
江口忠一

近火御見舞御禮　平町才槌小路三四　辯護士　門傳清吾

近火御見舞御禮　才槌小路　博盛堂　阿部修

近火御見舞御禮　田町　馬目支店

近火御見舞御禮　田町　鈴木濱吉

近火御見舞御禮　田町　渡邊重太郎

近火御見舞御禮　辯護士　永野柳造　才槌小路

近火御見舞御禮　田町　根本長一

近火御見舞御禮　才槌小路　瀨尾藥局

近火御見舞御禮　才槌小路　阿部政右エ門

近火御見舞御禮　田町　橋本浪尊知

近火御見舞御禮　平町役場

近火御見舞御禮　磐城新聞社